清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）
≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第２２集

（長野県道１号線～508 号線）

NO.148　鷹狩山展望台から見る北アルプスは圧巻

（長野県道 393 号走破）（長野県道 394 号走破）（長野県道 469 号走破）（長野県道 497 号走破）

NO.149　浅間山・北山麓「浅間高原シャクナゲ園」

（長野県道 103 号走破）（長野県道 138 号走破）

NO.150　木曽駒高原からキビオ峠を越えて

（長野県道 268 号走破）（長野県道 269 号走破）（長野県道 457 号走破）

NO.151　最新県道508号線(木曽川右岸道路)と阿寺渓谷

（長野県道 508 号走破）

NO.152　伊勢神宮「式年遷宮」(令和 15 年)・上松町始動

（長野県道 473 号走破）

NO.153　陸郷(昭和３２年まで陸郷村)のラベンダーと山桜

NO.154　旧大岡村の丘の棚田と旧信更村の大花見湖

（長野県道 390 号走破）（長野県道 395 号走破）（長野県道 396 号走破）

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　NO　道１４８

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2025.5.13

鷹狩山展望台から見る北アルプスは圧巻

澤田　繁　著

（長野県道 393 号走破）（長野県道 394 号走破）（長野県道 469 号走破）（長野県道 497 号走破）

2025.5.13 自宅を 12 時少し前に出発。松本インターから安曇野インターまで行き、田沢駅前に出て国道 19 号線で山清路まで行き、県道 55 号線を八坂方面に向かった。途中明科で、龍門渕公園・あやめ公園に寄ってあやめの咲き始めを見た。

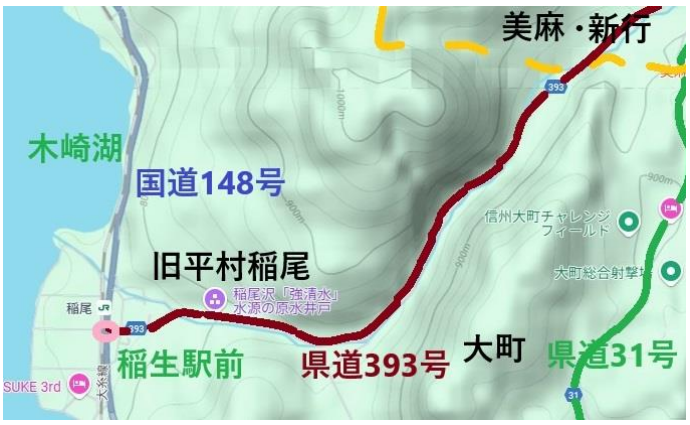
大町市八坂支所のある集落（大平）につき、県道 497 号の入口付近がナビで工事中の表示があったので、狭い迂回路を通り県道 497 号線に出た。県道 497 号線（美麻八坂線）の山道を北上して行くと、2 車線道路から 1.5 車線道路になり、再び 2 車線道路になり人家も見えてきた。しばらく走ると大きな集落に着き、運動場も見える、田んぼの多い切久保地区集落を通過し登りの道になり、しばらく登ると狭い道になった。棚田に沿って山道を登ると、「やまなみ山荘」の看板が見え、ここが十字路になっており直進すると、県道 497 号線（2022.7.26 は直進し、旧美麻村との境まで、狭い道がつづく）になるが、今日は、左折し、山道を登り「鷹狩山展望台」まで行った。この山道「道案内」がしっかりしていて、スムースに行く事が出来た。（遠くから歩く）駐車場の案内に惑わされる事なく、展望台下の駐車場に行く事が出来た。林間ばかの山道を大分走って来ていたので、「展望台」に来て、一気に視界が広がったので、「わあ～」と言う気分になった。

「鷹狩山展望台」は、正面下が大町市街地であり、アルプスに向かって高瀬川が伸びて谷間があり、黒部ダムに行く（谷間を入り、高瀬川と別れ右側の篭川沿いに）。正面右側に、爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳・五竜岳・白馬三山まで見える。正面左側には、餓鬼岳・燕岳・常念岳・大滝山までが見える「一大パノラマ」を堪能した。さらに展望台建物に入り、2 階のガラス張り展望テラス、さらに階段を何段も登り、一番上の展望場所にまで行った。一番上の備え付けの望遠鏡をのぞき、槍ヶ岳の先を確認した。食事もとれる建物もあり、暫く滞在できる場所でもあった。

展望台から下って行くと、美麻方面の案内があったので、沿って行くと、乗越峠に着き、大町方面と美麻方面に分岐していた

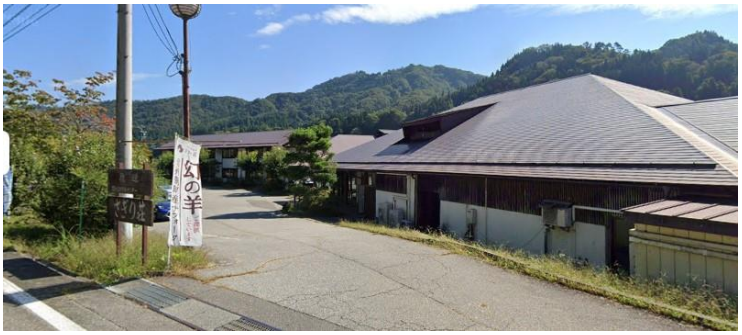
ので右折して、美麻方面に向かった。下りがきつい所を過ぎ、下りて行くと県道 479 号線に出た。相変わらず狭い山道を行くと、旧美麻村と旧八坂村の境に出て、そこから少し道が広くなっていた。境からゆっくり降りて行くと、大塩地区の集落に着き、大町から信州新町に向かう県道 394 号線を横切り、北上を続けた。二重地区までは、金熊川の上流にあたる谷を源流に向かって登って行く道で、田んぼが沿線にはあり、道もある程度広い道である。今日は、二重地区で、県道 393 号線に乗り換え、木崎湖に向かったが、道を間違え市道の良い道を南下し、県道 394 号線に出てしまった。県道 394 号線を大町市街に向かい、鷹狩山の展望台が真上に見える所を通り、国道 147 号線を通り、県道 306 号線新道を通り帰宅した。

二重地区からの県道 479 号線は、2022.7.26 に、金熊川の源流近くの美麻小中学校まで登り（標高 930m）ここからは、山腹に沿っての下りの道で、耕作地は、沿線には見当たらない山道であった。最後に急に下りがきつくなり降りたところが、終点の県道 31 号線との交点であった（標高 670m）。その日は、小川村を通り、信州新町から国道 19 号線で帰宅した（県道 479 号線走破）。



2022.12.26 コロナ化のため穂高神社で早めに初詣をすませ、大町のココスで昼食を食べ、国道 148 号線で木崎湖に向かった。昭和 29 年まで平村（現大町市）として飛騨山脈を初め多くの山を持つ村、旧平村の稲尾地区をスタート（県道 393 号線始点）し、わずかの耕作地を過ぎると、道とともに狭い谷間の緩やかな登りの山道を進み、旧美麻村新行地区に入り、徐々に開けた所に到達した。県道 31 号線と交錯し、そのまま行くと、山道を下る道になり、旧美麻村二重地区の耕作地に到達し、県道 497 号線に入る。しばらく県道 497 号線と重複し、2km 程南下すると、県道 393 号線と分岐する所があり、この日は、県道 497 号線を大塩地区まで行き、左折し県道 394 号線に入り、国道 19 号線を目指した。県道 394 号線（川口大町線）は、旧美麻村大塩地区からは、まずは金熊川に沿って進み、旧八坂村に入り、昭和 34 年に八坂村の左右地区が信州新町に編入したため、旧八坂村と信州新町（現

長野市）の境に入り、峠に向かい標高差80m 程を越えた所に信州新町左右の集落があり、そこからは国道 19 号線までは標高差260m 程を一気に下る道だった。金熊川は、旧八坂村と信州新町左右の境からは、南下して山清路で犀川に合流する。下った所が「さぎり荘」（標高 450m）で、信州不動温泉 さぎり荘は、自社牧場を持ち、国産のサフォーク羊を提供している。前に娘と孫を連れて行き、温泉と合わせてジンギスカンを食べました。「さぎり荘」から、距離800m 程で、国道 19 号線の川口交差点に着いた。



国道 19 号線の川口交差点より、戻って「さぎり荘」の先の三差路を右折し、県道393 号線（小島信濃木崎停車場線）に入った。この県道は、当信川に沿って源流まで、まずは通っている。走り始めは、谷間に沿って断崖を登って行くイメージで、すぐに「琵琶滝如来」がある。標高差 180m 程を登ると、信級地区に入る。道沿いに耕作地と家が点在しており、進んで行くと、県道 391 号線との交点がある旧信級村の中心地に着いた。この日は、ここから「さぎり荘」まで戻り、国道 19 号線を使い帰宅した。

2020.6.9 信州新町から県道 391 号線（第 19 集 NO.132）で信級（のぶしな）に着いた。ここから県道 393 号線を美麻方面に向かいました。最初に間違えて、長者山（1160m）に登ってしまったので、途中で気が付いたがそのまま登れる所まで行った。結構上まで登れたが景色の良い所までは行けなかった。山を降りて、県道 393 号線で長者山をぐるっと半周するように回りました。途中、いつ道が途切れるかと不安になる道であったが、信級から美麻高地に入り、ひたすら山道を進むと、何かの碑が建っていた、記憶では、廃村になって元住民がふるさととして碑を残したような文面だった。さらに登って源流を越え標高 900m まで登り、後は急な下りの道を麓の二重地区の県道 497 号線交点（標高 800m）まで降りた（前述と合わせ県道 393 号線走破）。

この日は、県道 497 線を南下し大塩の交差点を右折し県道 394 号線に入り大町方面に向かった。大塩集落を過ぎると人家はない山道になり、いくつもの山の間を縫うように進み、大町の平に向かって少しきつい下りに入った所に、蝗坂（まむしさか）スノーシェルター（1.2km）があり、そこを抜けた所で、旧県道 31 号線と交わり、右折すると、新県道 31 号線と交わった（前述と合わせ県道 394 号線走破）。その後、大町市街を通り抜け、北アルプス沿いを走り県道 25 号線に出て帰宅した。

国道 19 号線を松本から長野に行く途中、舟場（旧八坂村舟場）地区があり、川の駅「さざなみ」も気になっている。「山姥と金太郎伝説」の場所へも、ここから行ける。日付は忘れたが、長野方面に行った帰りに、舟場の三差路右折し県道 469 号線（舟場矢下線）に入った。県道 469 号線（金太郎参道）は、道は狭く登りの谷間の山道から始まり、2km 程で伝説の「山姥山」の登り口に着き、その先谷間の道を 1km 程行くと、谷間から離れ、山を登り尾根近くの道になり、布川峠を越えて下りの道になり、伝説にある「金熊川」に到達する。川沿いを県道 55 号線との交点まで進み、県道 55 号線から山清路に出て、国道19 号線を帰宅した（県道 469 号線走破）。

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　NO　道１４９

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2025.5.20

浅間山・北山麓「浅間高原シャクナゲ園」

澤田　繁　著

（長野県道 103 号走破）（長野県道 138 号走破）

2025.5.20 私もついに喜寿の誕生日を迎え、1 週間がたちました。米寿を祝う人がおり、佐久までお祝いの品を買いに出かけました。岡谷周りで、新和田トンネルを越え、国道 142 号線を使い望月を越え佐久平に着きました。上原中央交差点を左折し県道 103 号線（上原猿久保線）に入りました。耕地整理された田んぼが

広がる耕地を走り、御馬寄集落横を通り、千曲川に向かって坂を下り、千曲川を渡り（鳴瀬地区に入る）、湯川と千曲川の河岸段丘下の平地を走り、県道 78 号線と重複した部分から分岐する付近から河岸段丘に向かって登ると、丘の上の田園地帯に出た。三河田地区・高速道路の上を通過し・横和地区・再度三河田地区を過ぎると、工場団地が現れ、国道 141 号線を突っ切り、工場・住宅地を通り、県道 138 号線との交点の駒場公園入口交差点に到達した（県道 103 号線終点・県道 103 号線走破）。

駒場公園入口交差点から県道 138 号線（香坂中込線）を南下し旧中込町の瀬戸地区と中込地区を走り滑津大橋交差点で国道 254 号線と交わり国道を少し走り県道 144 号線に入り、3 度目の「ぴんころ地蔵」前につき、早速「魚甲本店」に寄り、米寿のお祝いにする「鯉の甘露煮」を買う事が出来ました。お目当てはまるまる一匹の鯉の甘露煮はありました。その足で「ぴんころ地蔵」を

参拝し、県道 138 号線の駒場公園入口交差点に戻って来ました。県道 138 号線の始点（滑津大橋交差点）から片側 2 車線の道路で、片側 2 車線区間は、駒場公園入口交差点を過ぎ、河岸段丘を降り湯川を渡り（浅間山が正面に見えた）、相生町南交差点まで整備されていた。県道 138 号線は、この交差点を右折し、岩村田商店街にある相生町交差点（左から中山道が来て県道 9 号線を北上する）まで来た。今日は直進し県道 9

号線を軽井沢方面に進んだ。県道 138 号線はこの交差点を右折して進むが、2022.10.4 に、佐久中佐都インター付近や中山道塩名田宿付近を散策した後、相生交差点まで来て東に進み、県道 44 号線（第 11 集、NO.72）と重複し市街地を走り、湯川を渡ると旧東（ひがし）村（昭和 30～36 年まで存在、香坂・安原・新子田・志賀の 4 地区）安原地区に入ると田園が広がる土地になった。県道 44 号線と分岐して東にすすんで行くと、小山があり平地が終わり、谷間の集落（香坂地区）が県道沿いにあり、又山を越えると、もう一つの集落（県道の上の道沿い）と香坂ダムが現れた。さらに進むと上信越道の真下に到着し、この辺が県道の終点と言う事で引き返した（県道 138 号線走破）。この日は、千曲ビューラインから東御市で国道 18 号線に出て、娘の家に寄って帰宅した。

2025.5.20 県道 9 号線（第 7 集、NO.44）を使い佐久インター付近に来て、昼食を食べ、佐久インター周辺の道路を通り、県道 9 号線に戻り途中から「かりん道路」に入り、御代田町を通り国道 18 号線に出た。中軽井沢から国道 146 号線に入り、多くの観光客を見ながら浅間山東山麓の登り道を走った。登り切ると変則十字路があり、左側が「鬼押ハイウェー」ですぐに料金所があった。有料道路とは以外でした。標高 1400m 付近の山腹を走り料金 270 円を現金で支払いました。

鬼押出しに着き、車を降りて、入場口まで歩いて行きましたが、昔来た事があり、園内を歩くのは大変だと思い断念して車に戻りました（写真右）。今日の目的の一つ「浅間高原シャクナゲ園」に行く事にしました。鬼押出しを出てから、又料金所があり 370 円を支払いました。シャクナ

ゲ園に行くには、有料道路途中から左折して行く道を調べてきたが、お金を払った気分から有料道路を最後まで走る気になりました。有料道路の終点の表示を見てしばらく行くと国道 406 号線に出たので、上田方面に向かって進み、左折できそうな道を探して左折しました。途中で道が全くわからなくなり、スマホのナビを起動させ、進みましたが一面野菜畑がつづき、農道を走り続けて、ようやく「浅間高原シャクナゲ園に到着しました。農道を登ってきた標高 1500m（駐車場）の所にあり、すぐ近くまで畑があった。

シャクナゲ園の案内には、『成り立ち・地元嬬恋村で植木の生産販売を営んでいた坂井敬一さんが、浅間山周辺に自生する大輪のシャクナゲに魅せられ、以来試行錯誤を繰り返した結果、ここ浅間高原でシャクナゲの安定した栽培に成功し、大規模な育成畑が展開されました。平成 12 年、このシャクナゲ畑の美しさを見て感動した地元の観光関係者から、「坂井さんの育成畑に隣接する村有地にシャクナゲを植えて、もっと多くの人達に見てもらってはどうか」との話が持ち上がり、坂井さんに相談したところ、「それじゃあ、私が苗木を寄付するよ！」と快く協力してくれることになり、アズマシャクナゲ 3 万株、ヤクシマシャクナゲ 3 千株、さらにコマクサ千株が村に寄贈されることになりました。このことを契機に浅間高原に新たな観光名所を造ろうという気運が高まり、地元の浅間高原観光協会をはじめ、建設団体など多くの方々がボランティアで植樹や駐車場整備に協力してくれました。村有地の約十ヘクタールに数年間にわたって植樹が行われた結果、坂井さんが所有する約二十ヘクタールのシャクナゲを含め、全体で十五万株という日本一の規模を誇るシャクナゲ園となりました。その後。シャクナゲの手入れ、駐車場の拡張、支障木の伐採、展望台の設置など施設の充実を進めながら現在に至っています。多くの皆様にシャクナゲの花はもとより、標高 1600m から望む四季折々の素晴らしい景色を楽しんでいただければ幸いです。平成二十七年十一月嬬恋村観光商工課　とある。』シャクナゲ園は広いので、少し登って写真を撮り、車に戻り「帰路」の表示通り、別荘地内を通り、再び野菜畑の道を鳥居峠まで走り、国道 406 号線と国道 144 号線を使い上田菅平インターから高速に乗り（途中娘の家に寄った）帰宅した。

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道１５０

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　　2025.5.31

木曽駒高原からキビオ峠を越えて

澤田　繁　著

（長野県道 268 号走破）（長野県道 269 号走破）（長野県道 457 号走破）

2022.9.20塩尻北インターから高速に乗り、小黒川スマートインターで降り「かんてんぱぱ」に寄り、伊那市西部周辺を散策し、国道 361 号線で権平峠を越え、国道 19 号線の木曽谷を南下した。平成 17 年（2005 年）まで日義村であった所に入り、道の駅日義木曽駒高原で休憩をした。旧日義村は「朝日将軍木曾義仲」にちなんで付けた村名で、ゆかりの地である。又中山道（江戸から京都）の中間地（距離）があった。

道の駅を出てすぐ原野交差点を左折して、県道 457 号線（馬寄小沢線）に入り、中央アルプス木曽駒ヶ岳の裾野に広がる標高 1,000m前後の扇状地の木曽駒高原に入る。文化ホール等がある「木曽文化公園」横を通り、木曽駒カントリークラブの横を通って行くと、県道 457 号線が本道と離れるような交差点があったが表示等はなく、そのまま直進してかなり進んでから戻って来て県道 457 号線のつづきを走った。左にゴルフ場がつづいていたが、ゴルフ場がなくなり、別荘地帯が広がっていたが道路からは、建物はほとんど見えかった。橋を渡るとすぐに「長野県水産試験場木曽試験地」があった。この辺が県道 457 号線の終点のようだ（県道 457 号線走破）。

水産試験場を越えてからは、道の登りが急になった山腹を走った。ここから峠までは、別荘地がつづき、50 数年前に、どんな家を建てようかと思っていた時期に、別荘を見に来た事があり、傾斜面にも建物が建っていて驚いた記憶がある。キビオ峠の展望台前（写真次ページ）まで来ました。すぐ横に「福島Ａコース」

のキビオ峠登山口があったが、2025 年 3 月に廃道になっていた。木曽駒ヶ岳へは、水産試験場から 700m 行った所に分岐点があり、右はキビオ峠、左に 1.5ｋｍ程行くと「木曽駒冷水公園」があり、そのすぐ近くコガラ登山口があり「福島Ｂコース」で山頂まで行ける。

展望台から山腹の道を進むと、三差路があり、県道 269 号線（木曽福島停車場駒ヶ岳線）と交わった。県道 269 号線の終点は駒ヶ岳となっているので、廃道になった「福島Ａコース」の登山道ではないかと推測する。車道では、この三差路（標高 1200m）から木曽福島駅（標高 760m）に向かって、ひたすら降りて行く道であり、八沢川の川沿いの谷間を走る道で、木曽駒の湯温泉までは、山道であり、温泉を過ぎると耕作地が現れ始め、谷間は狭いまま国道 19 号線を渡り、中央西線の鉄道下をくぐり市街地に入るまで続いた。市街地に入り、旧中山道の道に入り、そのまま木曽福島駅まで県道 269 号線は伸びていた（県道 269 号線走破）。この日は、福島の市街地を散策し「田ぐち菓子店」に寄り、国道 19 号線に出て帰宅した。現在の木曽町は平成 17 年（2005 年）に、木曽福島町と日義村と開田村と三岳村が合併し発足した。木曽福島町は、昭和 42 年（1967 年）に福島町と新開村の合併により出来た町で、最初の東京オリンピックより後の事のようだ。

木曽福島市街地は、旧中山道を中心に発展しており、関所関連や福島宿に加え木曽義仲に関する場所もあった。木曽福島駅より南に、300m 程の県道 268 号線（木曽福島停車場線）があり、木曽町役場の下で県道 461 号線と交わっている（県道 268 号線走破）。

今日も含め、市街の名所を訪ねているが、興禅寺の庭は 2 度程見に行っている。興禅寺は室町時代（1434）に創建されたと伝わる寺院。園内には 4 つの庭園があり、特にモダンな庭園造りで知られる日本庭園史の研究家・重森三玲（しげもりみれい）によって昭和 38 年に作庭された「日本一広い石庭・看雲庭（かんうんてい）」が有名である。

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　NO　道１５１

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2025.6.3
最新県道508号線(木曽川右岸道路)と阿寺渓谷

澤田　繁　著

（長野県道 508 号走破）

2025.6.3 前号で長野県水産試験場を調べていたら、信州サーモンが食べられる道の駅で「木曽福島」が記載されていたので、食べに行きました。信州サーモンは《1994 年（平成 6 年）から 10 年にわたる研究の中で、全国初の手法により繁殖能力を持たないサーモンを生み出すことに成功しました。 この技術により、成熟による肉質の劣化を防ぎ、一年中安定した品質のサーモンの生産が可能となったのです。 こうして 2004 年（平成 16 年）に誕生した『信州サーモン』は、2014 年（平成 26 年）に地域団体商標として登録。》又、2025 年の稚魚の出荷案内として、「信州サーモン」の稚魚の今年の初出荷を５月 17 日に行います。◆場所 水産試験場 押野試験池 （安曇野市明科七貴 5560-34） ◆出荷する稚魚 体長６～７cm、体重２～５g、採卵後約６か月 ５～７月にかけて県内 30 業者へ約 42 万尾を出荷予定とある。

長野県の農業関係試験場は、現在 6 つの試験場（農業・果樹・野菜花き・畜産・南信農業・水産）を、中心に農業・水産業の課題解決のための試験研究を行っている。私の中学校の時は、通学路の脇（信大文理学部・現県の森北に位置）に正面玄関があった蚕糸試験場・松本支場（今は蚕糸記念公園）の広大な敷地には、桑畑が広がっていたものだが、時代とともに主力製品も変わって来た。昨年夏より、米の高値がつづいているが、長野県の農業・水産業の生産額比率は、米・穀類が 17.1%、野菜が 26.5%、果実が 19.8%、花きが 4.9%、きのこが 16.5%、畜産が 10.9%、水産が 2.0%、その他 2.3%となっていて、思った程、米・穀類が少ない、田んぼでは減反のせいか、そば・大豆・麦などが場所を変え栽培されている。長野県試験場から出た「新品種」は、多くの労力を要していると思われるが、新規に開発するには、工業製品（私の経験）と農業製品とも年数がかかることもわかった。

道の駅「木曽福島」（写真）の木曽川に面した食堂からは、晴れていれば御嶽山が見える（この日は雨）で「信州サーモン」を使った「サーモン漬け丼」を食べた。窓からは対岸にお宮が見えたが、**木曽御嶽本教**とは別の奈良県に本宮がある**御嶽教**のお宮であった。噴火による奥社焼失は、木曽御嶽本教のお宮で、王滝村役場近くに里宮がある。2022.11.8 御岳ロープウェイに行った後、県道 508 号線の始点が分らなかったので、道の駅三岳近くから県道 20 号線の対岸の道（王滝川右岸の木曽ダムに沿う）

木曽川の右岸に出てすぐ右に大きな神社があったので気になっていた。

食事の後、買い物をし、国道 19 号線を南下し、木曽川を渡った所で、県道 508 号線（上松南木曽線）に入り、木曽ダムから来る道と合流した。県道 508 号線は、木曽川右岸道路と呼ばれており、長野県で最も新しい県道（現在 508 号が最終番号）でもある。背景には、高速道路が並行しないこの地域では、国道 19 号は「木曽高速」と呼ばれるほど大型トラックなどの交通が激しく、住民の生活に大きな影響を与えていた。その問題を解消するために木曽川右岸道路が整備されるとともに県道昇格の要望が高く、2009 年（平成 21 年）に木曽川右岸道路の南部ルートの大半が県道へと指定されることとなった。木曽川右岸道路の計画区間として、2010 年（平成 22 年）度から整備を進められていた、上松町登玉～大桑村和村（わむら）間が 2020 年（令和 2 年）に開通した。この県道、**信号機がない**道で、地元車しか走ってなく、結構飛ばしている。上松市街には、一旦木曽川を渡り、県道 473 号線と重複して、左岸沿いの道の市街地を抜けるまで走り、右岸に渡り県道 473 号線と分岐して、再び右岸を走る。上松市街地の駅周辺に寄り道をしてから県道 508 号線に戻った。この県道を走ったが、木曽谷なので景色は良くないが、整備された道路で走りやすかった。トンネルは 5 箇所（ねざめ・かくれ滝・倉本・境・和村）あり、トンネル名でおおよその場所がわかるが、ねざめトンネルのため「寝覚め床」は見る事が出来ない。境トンネルは、大桑村殿と上松町荻原倉本との境にあるトンネルでした。県道 508 号線は和村の先は未完成のため、和村橋を渡り国道 19 号線に出た（県道 508 号線走破）。

今日は、大桑村に行き、野尻宿から「阿寺渓谷（あてらけいこく）」に行きました。木曽川を渡るとすぐに渓谷が始まり、ところどころ見える川の流れと大石を見ながら 10 分くらい川沿いを登ったところで、車を降りて渓谷を眺め、阿寺ブルー（写真）を撮って、少し先のキャンプ場前まで行き引き返しましたが、車とは一台もすれ違う事がありませんでした。国道 19 号線で南木曽町を通り、旧山口村の道の駅「賤母（しずも）」で休憩し、ほうば巻きを買って食べました。隣接している「東山魁夷・心の旅路館」を見学し、中津川インターから帰宅した。

歳時記ホームはこちら　http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道１５２

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　　2025.6.3

伊勢神宮「式年遷宮」(令和 15 年)・上松町始動

澤田　繁　著

（長野県道 473 号走破）

2025.6.3 県道 508 号線を走る途中に、上松町市街を散策しました。市街に入ると「伊勢神宮御神木」の幟（のぼり）が目に付きました。上松駅前の駐車場には、催し物を行う準備がしてあり、駐車出来ませんでした。さらに商店街を通ると、通りの両側に幟(のぼり)が立てられていました。家に帰り、ニュースなどを見ましたら、二十年に一度の伊勢神宮「式年遷宮」の行事が始まったとの事でした。初日のこの日は、「御樋代(みひしろ)」と呼ばれる御神体を納める材料となる木曽ヒノキを切り出す「御杣(みそま)始祭」を行います。2 日目は、この御杣木を JR 上松駅まで、ひいて運ぶ「お木曳き行事」。3 日目は、「奉納行事」の日で木曽地域のさまざまな団体が JR 上松駅前で、御神木に郷土芸能を披露する。4 日目（最終日）には、神事が行われたあと、御神木をトラックに載せて、木曽を旅立つ「奉送行事」が行われます。御神木は大桑村、南木曽町などで、お祝いの行事が行われた後、内宮には 9 日、外宮には 10 日に到着する予定。

「御杣始祭」の映像がユーチューブで見る事が出来ました。場所は**「赤沢自然休養林」**で、神事が 2H・三ツ紐伐(ひもきり)り1H20 分が収録されていた。樹齢 300 年高さ 26m が内宮用 1 本・外宮用 1 本が斧で倒された。この後上松町市街に運ばれ、およそ 10 時間かけて木の両端（長さ 6.6m）を削ったり、ござを巻いたりする「化粧掛け」を行い、台車に載せられ「お曳き行事」を行い上松駅前に置かれ、最終日にトラックに載せられ上松町から伊勢神宮まで運ばれる。

2015.10.27 国道 19 号線から県道 473 号線（上松御岳線）に入り、上松市街の周りを通り木曽川（標高 680 m）を渡り、**「赤沢自然休養林」**を目指しました。木曽川に流れ込む小川の川沿いの道を登って、焼笹バス停（標高 760m）先を左折して、県道 473 号線とは離れ、更に小川に沿って登り、ようやく駐車場（標高 1120m）に着きました。駐車場のすぐ近くの吊橋（赤

沢橋）を渡ったり、お目当ての「トロッコ電車」でひのきの森を往復したりして楽しんだ。

2022.11.8 国道 19 号線で道の駅木曽福島まで行き、休憩後少し戻って元橋交差点から県道 20 号線に入り、木曽ダムを左に王滝川を上流に向かって進み、県道 473 号線との交点である常盤橋の東の三差路に着き、ここから 473 号線に入り、県道 20 号線の重複区間を三岳黒沢交差点まで走り、左折すると王滝川に沿って王滝村まで（第 4 集 NO.24）行く、ここを右折し旧三岳村（御嶽山・乗鞍岳・木曽駒ヶ岳の名峰三山が見有れることからの村名）の市街地を通り、王滝川に流れ込む白川に沿って登って行った。県道 473 号線は、県道 20 号線と三岳荻之島で分岐し、さらに白川の上流に行く、御嶽山山岳宗教の「霊神碑」が道路横に現れ始め、登ると次第に数が多くなっていった、旅館・石材店もあり、それが切れた所が県道 473 号線の終点となっているが、この県道も終点が山頂のようで、御岳山山頂までは、百間滝入口（駐車場・標高 1180m）から「百間滝湯歩道」を通り、御岳ロープウェイ終点近くの七合目（標高 2160m）から御嶽山（3067m）までの登山道が有力。473 号線の表示（ナビ）が切れた所から、山道（倉越パノラマライン）を登り、途中御岳ロープウェイに行く道とさらに登る道との分岐点があり、御岳ロープウェイ方面に向かった、少し下りの道となり、すぐにロープウェイの下をくぐり、御岳ロープウェイに着いた。この日は、このまま県道 20 号線下って、県道 20 号線を三岳荻之島交差点まで行き、県道 473 号線を、20 号線と分岐（常盤橋）するところまで戻り、20 号線を少し走り、王滝川の右岸を走り、前作の県道 508 号線を走り南木曽町から飯田に抜け帰宅した。

2022. 3. 22 残りの県道 473 号線を、国道 19 号線から県道 20 号線を使い、常盤橋の東の三差路（県道 473 号線交点・標高 780m）を左折し、谷間の山道を登る。木曽町三岳地区と上松町の境である峠（標高 1130m）に到達した。峠から「東京大学の天文観測所」まで行く道があった。峠を越え、赤沢自然休養林に行く、焼笹バス停までは、少しの集落あり、谷の上の山腹道路ありの山道をゆっくり下った（県道 473 号線走破）。この日は上松町から国道 19 号線で帰宅した。

歳時記ホームはこちら　http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道１５３

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2025.6.17

陸郷（りくごう）（昭和32年まで陸郷村）のラベンダーと山桜

澤田　繁　著

2025.6.17 ラベンダーの季節になりました。波田から穂高神社まで行き休憩をし、国道 147 号線に出て、島新田交差点を右折し県道 329 号線（原木戸安曇追分停車場線線）に入り高瀬川を渡り池田町に入りました。渋田見交差点から県道 31 号線を北上し、道の駅池田を過ぎて滝沢交差点を右折し、いよいよラベンダー農場「夢農場」に向かいました。しばらく山際（標高 610m）の人家のある道を通り、山道に入りました。池田町会染と池田町陸郷（りくごう）とは 800m 前後の山並みが境になっており、境の八代峠（標高 790m）を越えて陸郷に入り、下りの山道を夢農場（標高 620m）まで下った。

夢農場では、最初にラベンダー畑を見てから売店に行き、女房は、体験コースの「ラベンダースティック」を申し込み早速始まり、私はハーブティーでのんびりしていました。陸郷は、あちこちに「山桜」があり、4 月にはこの周辺でもみられるそうだ。体験も終了し、夢農場を後にして、沢沿いを下り、犀川に出ました。ここで橋を渡るのを見過ごして、犀川左岸を走ってしまいました。橋を求めて進んだが、ダムを過ぎ、しばらく行っ

た所に、動物よけのガードに囲まれた耕作地があったが、ゲートを空けて進んだがその先のゲートは開かず道もなさそうなので、引き返す事にした。見落とした橋を渡り、下生野交差点から国道 19 号線に出て、北上し、長野市街の 19 号線バイパスを通り、長野インターに乗った。

2025.4.29 山桜のきれいな所があるとニュースで聞いたので、まだ間に合うか分からないので「陸郷桜仙峡」に行って見る事にしました。国道 19 号線を北上し、生坂村に入ってすぐ下生野交差点を左折し、犀川を渡りＴ字路（標高 500m）を左折、沢沿いを 500m 程進むと、山道に行く道があり、山道に入った。すれ違いがきびしいつづら折りの道を登って行くと、集落（標高 600m）があり、集落を抜ける所は更に狭い道であった。集落を抜けると、山道に入った時と同じ広さに道になり、又つづら折りがつづき、カーブが少なくなり、視界が開けた場所に出た。そこに看板があり、「桜仙峡」（標高 720m）に着いた。

山桜の花の景色、間に合わなかった！だが周囲の景色はいい所で、北アルプス（有明山）が見え、小屋とトイレの施設があった。桜の花も小屋の横にまだ 1 本咲いていたので花見は出来た。

少し休憩の後、そのまま進みました。尾根道を 1km 程進むと「登波離橋」が現れ、渡った所で車を止め、橋を歩いて谷底を見、民話の説明を読み、写真を撮りました。『＜登波離橋由緒＞ここ白駒城のほとりに架けられた登波離橋は、いつ誰の手で架けられたか定かではありませんが、往昔から現代にいたるまで、閣道、木橋など何回かの架けかえのあったことはたしかです。この橋に関する伝説に次のようなものがあります。白駒城主樋口行時は鎌倉時代中期の人で、その正妻をふじ女といい別に妾妻きよ女がおりました。きよ女はふじ女を亡きものにしようと企て正応四年四月十五日の花見の会を催しましたが、その新橋からふじ女を落とそうと狙っておりました。これを察したふじ女は、きよ女の袂と自分の袂を十針縫い合わせておきました。宴が終わっての帰り路で、この時とばかりきよ女はふじ女を橋から突き落としました。ふじ女に続いてきよ女も谷底へ落ち、二人共絶命いたしました。行時はこれを悲しみ、非を悔い出家して行知法師と名を改め、二女の冥福を祈りました。それ以後、この谷には一身二頭の蛇があらわれ、一本の根に二本の幹をもつ松が映えるようになったといわれます。登波離橋はまた十針、妬張、妬割とも書き、別に戸張、鳥放、蛇橋など多くの呼び名をもっております。現在の橋は昭和五十一年の新設であります。』車に戻り出発、すぐに池田町会染地区に入り、さらに登り白駒城跡の下（ピーク標高 790m）を通り、後は山道を下り、県道 275 号線に出た（標高 620m）。この後、安曇野の北側を散策し帰宅した。

【付録】陸郷村：昭和 32 年に生坂村・池田町・明科町（現在安曇野市）に分割された村、字（あざ）単位での分割で、現在は、生坂村北陸郷（草尾・白駒の牛沢/袖山・日岐の清水/矢代を除く）・池田町陸郷＜中陸郷＞（白駒・日岐・寺村の金井沢を除く）・明科町南陸郷（中村・小泉・寺村の金井沢）になっている。

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道１５４

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　　2025.6.23

旧大岡村の丘の棚田と旧信更村の大花見湖

澤田　繁　著

（県道 390 号走破）（県道 395 号走破）（県道 396 号走破）

2025.6.23 現在長野市であるが、2005 年まで大岡村であった地域と 1966 年まで信更村であった地域の丘を目指しました。国道 19 号線を北上し、山清路を通り、生坂村から旧八坂村に入り、先週昼食でたち寄った「川の駅さざなみ」の横を過ぎ、600m 程行った所を右折し、犀川を渡り、旧大岡村に入りました。

旧大岡村は、山清路以北から川口交差点の 600m 先の川口橋手前までの犀川右岸から、聖山（1447m）に向かう地域であり、国道 19 号線から、標高 800m～900m の山腹走る県道 12 号線（第 9 集 NO.61）に向かって登る道は、川口交差点から登る県道 395 号線がメインだが、川口交差点手前（松本寄り）2.5km から登る「りんどう街道」は以前に登った事がある。他には、山清路から近くにある「平ダム」手前の御曹子橋と平ダム下流 2.5km 先の大八橋と、今回渡った**久方橋**（標高 560m）から登る道がある。

橋を渡った所に、旧大岡村の**下大岡**(しもおおおか)地区の表示があり、右に**長瀬**（市道久方大八橋線）、左に**町田・石津**（市道石津久方橋線）の矢印があったので、左に行ったらすぐに山道に入り登り始めました。登る事 10 分で、**「石津の棚田」**に到着しました。途中少し田んぼや開けた所があったがほとんど林間でした。

石津の棚田から更に登って県道 12 号線に出て、すぐに大岡支所（長野市役所）に立ち寄りました。お勧めの棚田を聞きましたが、あいにく担当不在でしたが、他の人が対応してくれま

した。パンフレットとともに「棚田カード」（A5 サイズ・真中にキャッシュカードサイズのカードが張り付いている）を一枚いただきました。見る限り旧大岡村のたんぼは「**すべて棚田**」であり、写真を撮れば背景にアルプス等の山が写る場所でもある。「**日本棚田百選**」は、棚田保全や整備推進等を目的として、1999 年（平成 11 年）に農林水産省によって 117 市町村・134 地区の棚田が選定された。選定後には、保全活動の困難さから荒廃の危機に瀕する棚田も登場した。2019 年（令和元年）には棚田地域振興法が施行され、2022 年（令和 4 年）に改めて 271 地区のつなぐ棚田遺産が選定された。長野県には、山とともに棚田は多い、平成 11 年の選定では、16 か所選ばれているが、場所によっては荒廃が進んでいる。旧大岡村では 3 か所選定されている。「慶師沖」「根越沖」「原田沖」で「根越沖」は石津棚田から直線で南西に 2km の所にあり、もらった「棚田カード」の場所。「原田沖」は大岡支所から県道 12 号線を南に数 km 程行った所にあり、「慶師沖」は、県道 12 号線を北に行った所にある。今日は、大岡支所から北に向かい、「慶師沖」棚田も見に行きました。12 号線より下った所のそれらしき棚田を見ましたが、荒廃が進んでいるように見えました。県道 12 号線に戻り更に北に行き大岡温泉の少し先で写真を撮りました。

棚田から県道走破に話を移す。2020.12.29 千曲市の娘の家に寄り孫と合流し、稲荷山駅に行き、稲荷山駅から稲荷山駅入口までの短い区間の県道 396 号線（稲荷山停車場線）を走り、稲荷山駅入口交差点から県道 395 号線（395 号線終点）に入った。篠ノ井線の信号を渡りすぐの三差路を左折し 300m 程で県道 70 号線と一緒になり、そのまま山道になり、300m 程行った所に 70 号線と分岐し左に入る道があった。県道 395 号線は、分岐した後、鳥坂峠を越え、信更町赤田で 70 号線と合流し、信更町氷ノ田で分岐するまで 70 号線と重複している（この 395 号線は後日に走破した）。その日は、狭い 395 号線ではなく、70 号線で山を越え犀川の見える所まで行き、そこから県道 70 号線を外れ下って国道 19 号線に出た。信州新町を通り、川口交差点（395 号線始点）から、県道 395 号線（川口田野口篠ノ井線）に入った。途中「ろうかく荘」でサフォーク定食を食べた。犀川から県道 12 号線までは登りの曲がりの多い道で、ほとんど林で集落は 3 か所くらいだった。県道 12 号線に出て、大岡村を散策し、善光寺街道の青柳宿まで足を延ばし、娘の家に戻り、孫と別れて帰宅した。（県道 396 号線走破）（県道 395 号線・川口～県道 12 号線と稲荷山～氷ノ田まで走破）

2025.6.2 県道 12 号線で棚田を写真に撮った後、県道 12 号線（県道 395 号線と重複区間）を更に北に進み、県道 12 号線と分岐し、600m 程行った所を左折しました。左折し 400m 程で「ひなたバイモ畑の展望台」につきましたが、バイモはなく、天気も悪くアルプスは見えなかった。そのまま細い道を信州新町の方に下って行き、旧大岡村から旧信州新町に入り、少し行くと中原集落に出ました。ここから県道 12 号線に出て、県道 390 号線（牧郷郵便局付近の始点）との交点に行き、県道 390 号線を走ろうとしたが、工事通行止めにあい中原集落に戻って来て、そこから県道 390 号線まで狭い道を進み到達しました。ここの工事区間は、

2022.3.1 に下から走っていたので、そのつづきを再度走る事にしました。

県道 390 号線（小峰稲荷山線）を登って行くと「小花見池」への標識があり、ここから旧信更村に入る。「小花見池」には行かずに進むと、山を登り切り県道 395 線との交点の三差路に着いた。ここから北に行き信更町氷ノ田で県道 70 号線と交わるまでの県道 395 号線は、2022.3.1 に走りました。信更町氷ノ田の県道 395 号線が分岐する三差路の標高は 620m、ここから丘の上を走る、氷ノ田地区・灰原地区・高野地区の集落以外は林間状態で、除々に高度を上げて県道 390 号線との交点では標高が 840m になっていた。昭和 31 年に、**信**田村と**更**府村が合併し信更村となる。県道 390 号線と 395 号線は、旧信田村（氷ノ田・灰原・高野・田沢・田野口・赤田）の地域を走る路線でもある。

2025.6.2、県道 390 号線を信州新町から上がってきて県道 395 号線との交点を右折すると、県道 390 号線と県道 395 号線の重複区間がつづき大花見池が見えた所で、県道 390 号線は分岐し稲荷山方面に向かう。この日は、県道 395 号線を「ひなたバイモ畑の展望台」を見るため脇道に入った所までを往復しました。分岐点から直ぐに旧大岡村に入り、小さな峠（標高差 50m）を越えるイメージでした。峠には、南長野ゴルフ倶楽部への入り口があった。同じくらいの高さを下った所に脇道の入口があり、Uターンして大花見池に戻り車を止めた（県道 395 号線全走破）。**「花見」**（けみ）は信州において湿地の意。カラマツが林をなす小花見（こげみ）高原に 1km ほどの距離を隔てて大花見池と小花見池（こげみいけ）があった。大花見池は、旧信更村田沢と接しているが、複雑な境でどうも信州新町中牧地区にある。

大花見池を出発し、県道 390 線は、少し登り、後は下っていく、数分で田沢地区（標高 820m）を通過し、千曲市に入り次の集落の大田原（標高 760m）は、結構平が広い地域でした。ここを過ぎると、下りは急になり、カーブ（1 か所ループ橋あり）も多く、狭い場所もまだ何か所か残っていて気を付けて走った。途中に景色の良い所があり、そこから写真を撮った。よく見ると娘の家に行くルートと姨捨の棚田の全容が写っていました。娘の家にいくには、まず姨捨スマートインターで降り、高速の下をくぐり、姨捨駅・長楽寺を通り、脇道（四十八枚田）に入るとすぐ四十八枚田があり、一坪弱の田んぼにはいつも稲が育っている。そのまま直線的に下ると国道 18 号バイパスにでるので国道を通り稲荷山に行くと娘の家に着く。下りきる前に、篠ノ井線の踏切を渡り善光寺街道と交わる。以前はここが終点だったが、ここから国道 18 号線バイパスの治田小学校東交差点まで順延された。この後娘の家に寄り帰宅した（県道 390 号線走破）。http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm